



奈良町にぎわい通信

Vol.22

二〇一六・立春〜雨水

発行
奈良町
にぎわいの家





当館スタッフによる体験茶会

①まずはお点前を見ていただきます。(緊張?!) → ②お客様ご自身で点てます。

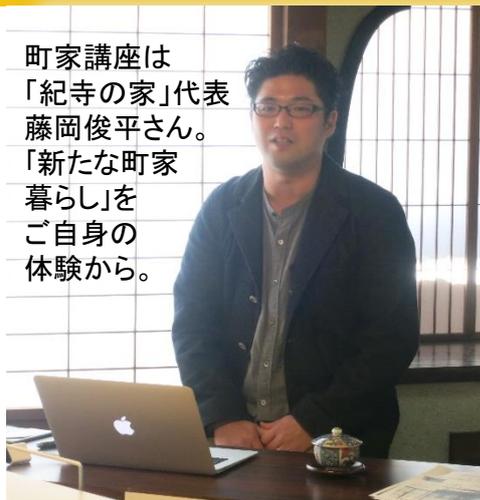
→③自分で点てたお茶の味はいかが？

にぎわいのお餅つき！



奈良町にぎわいの家 1月のイベントから

町家講座は「紀寺の家」代表藤岡俊平さん。「新たな町家暮らし」をご自身の体験から。



歌人・喜寿隆子さんによる短歌講座。詳細はレポートを。



蔵は地元作家、学生、来館者による凧の展示を。



フランスからのお客様、うまい！



コマ名人、大塚英二郎さんによる指導で女子大生も夢中！



お正月遊びコーナー。シンプルだけど楽しい！



にぎわい短歌会～「はじめての短歌」レポート

短歌…というと、なんとなく難しい、敷居が高いと思いませんか？そうでなく、誰でも気軽に楽しみ、作歌できる歌会を企画しました。折しも、宮中では歌会始めが終わった1/14。指導は、当館の二十四節気短歌の作者、喜多隆子先生。先生は日本を代表する歌人、故・前登志夫(日本芸術院会員・恩賜賞)の短歌結社ヤマムコ編集委員で、歌集やエッセイ本なども複数出版されています。まず、短歌になじんでもらうため、歌を皆で読み、先生に解説していただきました。一部、紹介すると、

なんとなく 今年はいい事あるごとし。 元旦の朝晴れて風無し	石川啄木
大寒の朝のスプーンのひいやりとみどりごが飲わりんごの果汁	俵万智
雪降れば空に向かって口あける そのように歌、歌ってごらん	おの・こまち
霜柱立てる土より引きぬきし太き大根(おおね)の首のさみどり	喜多隆子

どれもわかりやすい、冬の光景ですね。次は実作。一からの作歌は難しいので、前先生の歌より上句をお借りして、それに続いて、皆さんに下句を作ってもらいました。(～以下が皆さんの歌)

草の上におれの家族の集まりて ～笑顔はじける日だまりの中
 ～風を待ちつつ凧あげ準備
 ～おんごろの穴じっとみている ※おんごろ…もぐら
 ～フィーバーせしは遠き日のこと
 ～花を見上げる空を見上げる

皆さん、楽しく詠んでくれました。さて、前先生の本歌は…

草の上におれの家族の集まりて夏至の青梅積みあげしむかし

奈良は万葉集の地。1300年前、名もない人たちも、歌に自分の気持ちを重ね詠みました。私たちも今の暮らしの感性で、楽しく歌をと思います。4月に第2弾を企画しますので、どんな歌に出会えるか楽しみです。

(レポート/おの・こまち)



にぎわいスタッフによる 絵手紙&水墨画体験

奈良町にぎわいの家・二十四節気企画
オリジナル短歌&書&マークをお楽しみください。

当館の自慢は、受付スタッフさん。皆さん、いろんな特技や趣味を持っています。お茶、お花を始め、フラダンス！などなど。この絵手紙、水墨画もそんな特技から。来館時、特に何のご用意がなくても、気軽に参加、楽しんでいただけます。出来上がった作品も中々の力作で、「へえ、すごい！」と盛り上がり、お客様との交流の場になっています。不定期の開催ですが、玄関にお知らせがあれば、是非、のぞいて体験くださいね。



絵手紙、それぞれの葉書を手に。



↑水墨画は梅の花に挑戦。

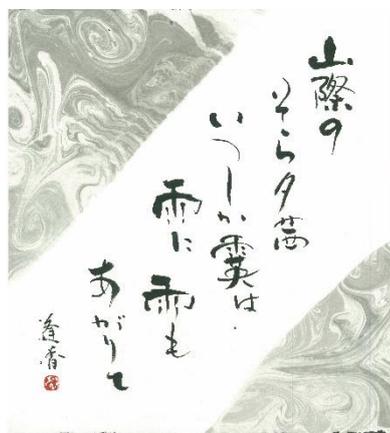


スペインからのお客様

短歌
喜多隆子(歌人)
書
逢香(書家)
節気マークデザイン
金田あおい(藍寧舎)



「雨水」



山に沈む夕日、山と空の間が茜色に染まっている。寒さで茜色がきわだつ夕空。いつしか、雲(みぞれ)は雨になり、そのうちに、雨もあがっていった…。少しずつ春へと向かう「雨水」の気配。「雨」の繰り返し返しが、少しずつ温くなる空気感を見事にあらわしています。結句を晴れやかに声にしたいたいお歌です。

山際のそら夕茜

いつしかに雲(みぞれ)は

雨に雨もあがりて

事務局だより

2017
雨水号

春々暮らしの祈り

事務局長 藤野正文

季節は、春の気配を感じる新年の「立春」から水ゆるみ草木の芽が始めるころ「雨水」に。まだまだ、寒い日が続きますが、裏の梅の木には蕾が見え始めました。一雨ごとに日差しが変わり、春一番が吹き早くもウグイスの鳴き声が聞こえ始めるころ。

こよみでは立春の前日（2月3日）が節分で、季節の変わり目には邪気が生じるといふ考えから、現在の節分行事は平安時代に始まったようですが、「ほぼ全国的にいり豆をまく追儼（ついな）の行事と門口にヤキカガシ（焼嗅）ヒイラギの枝に鯛の頭を刺したものを掲げる風習を行う点で共通している。」ようです。ヒイラギは家をのぞきにきた鬼の目をさすとされ、魔よけとして家の敷地の鬼門に植えるとよいといわれますが、焼いた鯛はやつぱり臭いので鬼（邪気）も臭いのが嫌いだったのでしょうか？にぎわいの家でも焼いた鯛が登場しましたが、やつぱり一日臭かったですね（笑）。

節分は日本人の生活に染みついてる習慣ですが、日本人は邪気というか、自然の中に潜む得体のしれない霊を恐れ、邪気が家の中に入っ



当館のスケッチを、藤田千代様よりいただきました。

きてもらっては困る。平穏な生活を毎日神様にお祈りしているのに鬼が壊しに来る。この時期は季節の変わり目だからこそ、より一層特別のこころを祈り、細やかな「日本人の祈り」が感じられる季節の行事です。

奈良町には「祈りの場」がたくさんあります。たくさん社寺だけでなく、町に支えられている神社、道端にあるお地藏様。町のひとにより続けられている春日講、庚申講。町家には仏壇・神棚。東から上る太陽に祈り、西に沈む太陽に一日の平穏を感謝する。現代の生活の中で、それぞれの祈りの場で、穏やかな祈りの時を持てる奈良町はずいぶん贅沢なところだと思います。



にぎわいトピックス

奈良町ではおなじみの節分後の風景。当館もスタッフが焼いて...出来たては中々のニオイ...



今年の元興寺の絵馬は酉年だから？コウノトリが運ぶのは鬼の赤ちゃん。とってもキュート！

つし二階アート企画 三好剛生展
かのえさるはよあかし 2/21



目隠してるのは隠れん坊じゃないよ。庚申さんをモチーフにしたアート作品。奈良町の民俗が新たな形に。



奈良町にぎわい通信vol.22

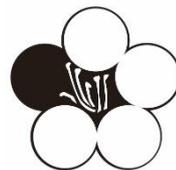
制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/

奈良町にぎわいの家二十四節気マークから



立春 2/4 ~
暦の上では春

二月の節気



雨水 2/18 ~
雪はやがて雨に

暦の上での春とはいえ、体感的にはまだまだ寒い日々。梅の紅や、球根類の緑など春の色に接する嬉しさ。三寒四温を繰り返し、少しずつ温かい季節へ。

イベント、講座情報は、ホームページ、フェイスブックからご覧になれます。是非、ご参加ください。